

2026年1月20日  
イオングループ  
イオントップバリュ株式会社

## 「神田外語大学」と「イオントップバリュ」との産学連携プロジェクト 大学生の声を反映！恋心をイメージした「グミ&チョコレート」を新発売

イオングループは1月20日、「イオングループ」「イオンスタイル」「マックスバリュ」など全国約1,780店舗<sup>※1</sup>にて、神田外語大学との産学連携プロジェクトから生まれた商品2品目を新発売します。



イオングループは、若い世代により支持される商品づくりを目指し、2023年より神田外語大学とイオントップバリュ（株）との産学連携プロジェクトを開始しました。その取り組みの一環として2024年度からはお菓子の企画・開発に着手し、急速に変化する若者のニーズに対応するため、大学生の意見や嗜好、ライフスタイルを取り入れた本商品を開発しました。

このたび発売する商品は、学生が海外で実際に購入した「魅力を感じたお菓子」をもとにインタビューや試食会を実施し、学生の声を取り入れました。さまざまなお菓子を試食いただいた結果、グミとチョコレートの組み合わせがユニークな食感と味わいで好評だったことから商品化を決定し、コンセプト設計からストーリーづくりまで、ともに取り組んでいます。

### ➤ 大学生の声を取り入れた産学連携プロジェクトから生まれた商品

若い世代により支持される商品づくりを目指し、2023年より神田外語大学とイオントップバリュ（株）との産学連携プロジェクトを開始しました。2024年度からはお菓子の企画・開発に着手し、海外で実際に購入した「魅力を感じたお菓子」をもとに、インタビューや試食会を実施し、企画・開発しています。

### ➤ グミ×チョコレートの組み合わせによる、ユニークな食感と味わい

さまざまなお菓子を試食いただいた結果、グミとチョコレートの組み合わせがユニークな食感と味わいで好評だったことから商品化を決定しました。グミをチョコレートで包むことで、グミの弾力とチョコレートならではの甘みやなめらかな口どけを一度に楽しめます。

### ➤ 「恋心」をイメージした2つのストーリー（グレープ×ビター／ストロベリー×ホワイト）

「恋わざらいの姫君」はジューシーなグレープグミとビターなチョコレートで、片思いで胸がキュッとなる姫君をイメージ。甘くてほろ苦い恋心を表現しています。

「恋わざらいの守護者」はストロベリーの酸味とホワイトチョコレートの濃厚さから誠実な守護者の胸に芽生えた小さな恋をイメージし、恋の甘い予感を表現しています。

イオングループは今後も世代やライフスタイルに寄り添った商品開発を通じて、誰もがワクワクする新しい価値を創造してまいります。

## 【販売概要】

発 売 日：2026年1月20日

販 売 店 舗：「イオン」「イオンスタイル」「マックスバリュ」など、全国約1,780店舗※<sup>1</sup>

販 売 価 格：本体198円（税込213.84円※<sup>2</sup>）

規 格：35g

商 品 名	トップバリュ 恋わざらいの姫君 グレープグミ & チョコレート	
特 長	小粒で食べやすいグレープ味のグミをビターチョコレートで包みました。グミの食感とビターチョコレートのほろにがさを同時に楽しめます。	
商 品 名	トップバリュ 恋わざらいの守護者 ストロベリーグミ & チョコレート	
特 長	小粒で食べやすいストロベリー味のグミをホワイトチョコレートで包みました。グミの食感とストロベリーの酸味とホワイトチョコのまろやかさを楽しめます。	

※1：店舗により品揃えが異なる場合、また取り扱いがない場合があります。

※2：税込価格は単品で購入した場合、小数点以下が切り捨てになります。

## ■ 【商品開発における神田外語大学との产学連携について】

若い世代の意見を取り入れた新しい商品づくりを目的に、海外文化に触れる機会が多い神田外語大学の学生の協力を得ました。学生の皆さまの高い感度と柔軟な視点を活かし、若い世代が魅力的に感じる新しいお菓子のニーズを探り、連携して商品化しました。

### 1：学生による海外市場調査の実施

海外旅行の予定のある学生を対象にプロジェクトの希望者を募集。

現地で「魅力を感じたお菓子」を購入いただき、海外のトレンドなどを把握。

### 2：グループインタビューの実施

学生に対して購入したお菓子の評価や嗜好性、ニーズに関するヒアリングを行い、若い世代ならではの視点からアイデアを収集。



### 3：商品企画・コンセプト設計への反映

インタビュー結果をもとに、学生と協働で商品コンセプトを検討。  
試作品の試食評価を踏まえ、最終的な商品設計に反映。

※学生とのミーティングの様子

### 4：発売品の共有会実施

開発の成果として完成した商品を学生とともに確認。

学生も実際のマーケティング業務を体験することで、実務への理解を深める機会になりました。

以上